G20 大阪サミットで、ホスピタル dERU を展開

活動期間：2019 年 6 月 27 日（木）～30 日（日）
活動場所：大阪市住之江区咲洲

2019 年 6 月 28-29 日に、大阪・咲洲のインテックス大阪を会場として、日本で初めての G20 が開催されました。この G20 大阪サミットにおいて、要人に関する不測の事態に対応するため、厚生労働省より依頼があり、当院のホスピタル dERU（災害用野外病院）を会場に隣接して設営することとなりました。

目的は、要人に不測の事態が発生し、市内の病院に搬送する時間的余裕もない場合に対処することで、おもに大量出血をともなう外傷を想定した展開をしました。

設営は会期の 1 日前に行い、初療室、レントゲン、手術室、集中治療室、滅菌室を立て、手術室を中心において、その周りに初療室、レントゲン室、集中治療室、滅菌室を連結しました。

初療室

手術室

滅菌室

人に関しては、大阪府内の医療職はなるべく自施設の病院での対応をということで、府外から実働部隊を招くこととなり、島根大学医学部付属病院高度外傷センターの医師、看護師の皆さんと協働、当院からは、麻酔科医と看護師、薬剤師、放射線技師各 1 名と、ホスピタル dERU を管理運用するための要員を 3 名派遣しました。

患者さんが到着してからいかに早く手術室に入れるか、なんどもシミュレーションを行い、レントゲンを初療室に移動したり、初療室のベッドを 2 つから 1 つに減らしたりと普段のレイアウトから G20 用に変更を行いました。

今回は、災害以外でホスピタル dERU を投入した初めてのケースでした。災害救助法が適応される大規模災害では、緊急医療支援に書類申請をする必要も、またその時間もありませんが、今回のような平時での展開では、新しく診療所をひとつ建てるのと同じだけの申請書類が必要で、半年前から準備をして望みましたが、平時に医療施設を展開するよい勉強になりました。

また、これまで自然災害を想定して設備を構築していましたが、今回のような超緊急外傷に対応するための資機材の準備も、今回を機に島根大学高度外傷センターのスタッフとともに行いました。